

利 用 上 の 注 意

I 工業統計調査について

1. 調査の目的

工業統計調査は、我が国の工業の実態を明らかにすることを目的とする。

2. 調査の根拠

工業統計調査は、統計法（平成19年法律第53号）に基づく「基幹統計調査」であり、工業統計調査規則（昭和26年通商産業省令第81号）によって実施される。

3. 調査の期日

平成30年工業統計調査（平成29年実績）は、平成30年6月1日現在で実施した。
事業所数、従業者数については平成30年6月1日現在、現金給与総額、製造品出荷額等などの経理事項については平成29年1月～12月の実績により調査している。

4. 調査の範囲

工業統計調査の範囲は、日本標準産業分類（平成25年総務省告示第405号）に掲げる「大分類E－製造業」に属する事業所（調査困難地域（東日本大震災（平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震及びこれに伴う原子力発電所の事故による災害をいう。）の影響により工業統計調査の実施が困難な地域として経済産業大臣の定める地域）にある事業所、国に属する事業所及び従業者3人以下の事業所を除く）を調査の対象としている。

5. 調査の方法

工業統計調査は、工業調査員（指定地域（東日本大震災の影響により工業調査の実施に大きな支障が生じている地域として経済産業大臣の定める地域をいう。）内にある事業所に対する調査、本社一括調査又は国直送調査については経済産業大臣）が配布する調査票（従業者30人以上の事業所（製造、加工又は修理を行っていない本社又は本店を除く）については「工業調査票甲」、従業者29人以下の事業所（製造、加工又は修理を行っていない本社又は本店を除く）については「工業調査票乙」）を用い、報告者（事業所の管理責任者（本社一括調査については本社一括調査企業を代表する者））の自計により行っている。

6. 公表

平成30年工業統計調査（平成29年実績）の集計結果は、平成30年工業統計表「速報」、「産業別統計表（概要版）」を公表し、その後確報として「品目別統計表」、「産業別統計表」及び「地域別統計表」を公表する。

7. 回収状況

平成30年工業統計調査の回収率は以下のとおり。

| 調査対象事業所数 | 調査票回収数 | 回収率 | 集計事業所数 |
|----------|---------|-------|---------|
| 198,846 | 189,284 | 95.2% | 188,249 |

注1. 調査対象事業所数及び調査票回収数及び集計事業所数には、廃業、転業、休業、操業準備中の事業所数及び操業開始後未出荷の事業所を含まない。

注2. 回収率は、調査票回収数÷調査対象事業所数により算出。

注3. 調査票回収数と集計事業所数（有効回答事業所数）の差は、無効回答事業所数である。

II 平成30年工業統計表について

1. 統計表の集計

- (1) 品目別統計表は、平成30年工業統計調査（平成29年実績）における「工業調査票甲」の12項「ア 品目別製造品出荷額」、「イ 品目別製造品在庫額」、「ウ 加工賃収入額」、「エ その他収入額」及び、「工業調査票乙」の10項「ア 品目別製造品出荷額」、「イ 加工賃収入額」、「ウ その他収入額」について、品目別に集計したものである。
- (2) 産業別統計表は、平成30年工業統計調査（平成29年実績）における「工業調査票甲」及び「工業調査票乙」について、日本標準産業分類に基づき、その主たる製造活動によって産業格付けし、産業別に集計したものである。
- なお、本編に先立って公表した『平成30年工業統計表 産業別統計表〔概要版〕』とは、値が異なる場合があり、本編が確定値である。
- (3) 地域別統計表は、平成30年工業統計調査（平成29年実績）における「工業調査票甲」及び「工業調査票乙」について、主要な調査項目を都道府県別、市区町村別に集計したものである。

2. 工業統計調査用産業分類

- (1) 工業統計調査用産業分類は、原則として日本標準産業分類に準拠している。例外については次のとおりである。

| 工業統計調査用産業分類 | 日本標準産業分類 |
|---|------------------------------|
| 1421 洋紙・機械すき和紙製造業（1421洋紙製造業、1423機械すき和紙製造業を統合） | 1421 洋紙製造業 1423 機械すき和紙製造業 |

- (2) 「中分類18 プラスチック製品製造業（別掲を除く）」の別掲については、次のとおりである。

| 製造品名 | 分類 | 製造品名 | 分類 |
|------------------------------|------|---------------------|------|
| 家具・装備品 | 13 | がん具・運動用具 | 325 |
| プラスチック製版 | 1521 | ペン・鉛筆・絵画用品・その他の事務用品 | 326 |
| 写真フィルム（乾板を含む） | 1695 | 漆器 | 3271 |
| 手袋 | 2051 | 畳 | 3282 |
| 耐火物 | 215 | うちわ・扇子・ちょうちん | 3283 |
| と石 | 2179 | ほうき・ブラシ | 3284 |
| 模造真珠 | 2199 | 喫煙用具（貴金属・宝石製を除く） | 3285 |
| 歯車 | 2531 | 洋傘・和傘・同部分品 | 3289 |
| 目盛りのついた三角定規 | 2739 | 魔法瓶 | 3289 |
| 注射筒 | 2741 | 看板・標識機 | 3292 |
| 義歯 | 2744 | パレット | 3293 |
| 装身具・装飾品・ボタン・同関連品（貴金属・宝石製を除く） | 322 | モデル・模型 | 3294 |
| | | 工業用模型 | 3295 |
| かつら | 3229 | レコード | 3296 |
| 時計側 | 3231 | 眼鏡 | 3297 |
| 楽器 | 324 | | |

3. 事業所の産業の決定方法

事業所を産業別に集計するための産業の決定方法は、次のとおりである。

(1) 一般的な方法

- ① 製造品が単品のみの事業所については、品目6桁番号の上4桁で産業細分類を決定する。
- ② 製造品が複数の品目にわたる事業所の場合は、まず、上2桁の番号（中分類）を同じくする品目の製造品出荷額等をそれぞれ合計し、その額の最も大きいもので2桁番号を決定する。次に、その決定された2桁の番号のうち、前記と同様な方法で3桁番号（小分類）、さらに4桁番号（細分類）を決定し、最終的な産業格付けとする。

(2) 特殊な方法

上記の方法以外に、原材料、作業工程、機械設備等により、産業を決定しているものがある。その産業とは、「中分類22 鉄鋼業」に属する「高炉による製鉄業」、「製鋼・製鋼圧延業（転炉・電気炉を含む）」、「熱間圧延業」、「冷間圧延業」、「冷間ロール成型形鋼製造業」、「鋼管製造業」、「伸鉄業」、「磨棒鋼製造業」、「引抜鋼管製造業」、「伸線業」及び「その他の製鋼を行わない鋼材製造業」の11産業である。

4. 統計表の項目の説明

(1) 事業所数は、平成30年6月1日現在の数値である。

事業所とは、一般的に工場、製作所、製造所あるいは加工所などと呼ばれているような、一区画を占めて主として製造又は加工を行っているものをいう。

(2) 経営組織は、「会社」、「組合・その他の法人」及び「個人」に区分される。

- ① 会社とは、法律の規定によって法人格を認められて事業を営むものうち、株式会社（有限会社を含む）、合同会社、合資会社及び合名会社をいう。
- ② 組合・その他の法人とは、法律の規定によって法人格を認められた事業を営む組合、上記①の会社を除いたその他の法人などをいう。
- ③ 個人とは、個人で事業を営んでいるものをいう。なお、共同経営の場合であっても、法律の規定によって法人格を認められていない場合は、個人に含まれる。

(3) 資本金額又は出資金額は、平成30年6月1日現在で払込み済みの資本金の額又は出資金の額である。

(4) 従業者数は、平成30年6月1日現在の数値である。

従業者とは、以下の①から⑧までに該当するものをいう。

本統計表でいう従業者数は、下記算式により算出した「この事業所に従事している男女計」をいう。

$$\begin{aligned} \text{従業者数} = & \text{①個人業主及び無給家族従業者} + \text{②有給役員} \\ & + \text{常用雇用者（③正社員・正職員としている人} \\ & + \text{④ ③以外の人（パート・アルバイトなど））} - \text{⑦送出者} \\ & + \text{⑧出向・派遣受入者} \end{aligned}$$

- ① 「①個人業主及び無給家族従業者」とは、以下のア、イに該当するものをいう。
ア. 「個人業主」とは、個人経営の事業所で、その事業所を営んでいる人をいう。
イ. 「無給家族従業者」とは、個人業主の家族で、賃金・給与を受けずに、常時従事している人をいう。ただし、手伝い程度のものは含まない。
- ② 「②有給役員」とは、事業所の取締役、理事などで役員報酬を得ている人をいう。他

の事業所の役員を兼ねている場合であっても、調査対象事業所が役員報酬を支給している場合は、調査対象事業所の有給役員に該当する。

- ③ 「常用雇用者」とは、次のいずれかに該当するものをいい、「③正社員・正職員としている人」及び「④ ③以外の人（パート・アルバイトなど）」に分けられる。
 - a) 期間を定めずに、又は1か月以上の期間を定めて雇用している人。別経営の事業所へ出向・派遣している人や、臨時職員などと呼ばれている人でも上記に当てはまる場合は、「常用雇用者」に含まれる。
 - b) 個人業主の家族で、実際に雇用者並みの賃金・給与の支払いを受けている人。
 - c) 個人が共同で事業を行っている場合、そのうち1人を個人業主とするが、個人業主としなかった他の人。
- ④ 「③正社員・正職員としている人」とは、常用雇用者のうち「正社員」、「正職員」として処遇している人をいう。一般的に、雇用契約期間に定めがなく（定年制を含む）、事業所で定められている1週間の所定労働時間で働いている人が該当する。
- ⑤ 「④ ③以外の人（パート・アルバイトなど）」とは、常用雇用者のうち「契約社員」、「嘱託」、「パートタイマー」、「アルバイト」など「③正社員・正職員としている人」以外の人をいう。
- ⑥ 「⑤臨時雇用者」とは、常用雇用者に該当しない人（1か月未満の期間を定めて雇用している人や日々雇用している人など）をいう。
- ⑦ 「⑦送出者」とは、個人業主及び無給家族従業者、有給役員、常用雇用者、臨時雇用者に該当する人のうち、労働者派遣法でいう派遣労働者のほかに、在籍出向など調査対象事業所に籍を置いたまま、他企業など別経営の事業所で働いている人をいう。
- ⑧ 「⑧出向・派遣受入者」とは、別経営の事業所に籍を置いたまま調査対象事業所で働いている人及び人材派遣会社からの派遣従業者をいう。

- (5) 現金給与総額は、平成29年1年間に常用雇用者及び有給役員のうちこの事業所に従事している人に対して支給された基本給、諸手当及び特別に支払われた給与（期末賞与等）の額とその他の給与額との合計である。

その他の給与額とは、常用雇用者及び有給役員に対する退職金又は解雇予告手当、出向・派遣受入者に係る支払額、臨時雇用者に対する給与、別経営の事業所へ出向させている人に対する負担額などをいう。

- (6) 原材料使用額等は、平成29年1年間における原材料使用額、燃料使用額、電力使用額、委託生産費、製造等に関連する外注費及び転売した商品の仕入額の合計であり、消費税額を含んだ額である。
- ① 原材料使用額とは、主要原材料、補助材料、購入部分品、容器、包装材料、工場維持用の材料及び消耗品など、実際に製造等に使用した総使用額をいい、原材料として使用した石炭、石油なども含まれる。また、下請工場などに原材料を支給して製造加工を行わせた場合には、支給した原材料の額も含まれる。
 - ② 燃料使用額とは、生産段階で使用した燃料費、貨物運搬用及び暖房用の燃料費、購入したガスの料金、自家発電用の燃料費などをいう。
 - ③ 電力使用額とは、購入した電力の使用額をいい、自家発電は含まない。
 - ④ 委託生産費とは、原材料又は中間製品を他企業の国内事業所に支給して製造又は加工を委託した場合、これに支払った加工賃及び支払うべき加工賃をいう。
 - ⑤ 製造等に関連する外注費とは、生産設備の保守・点検・修理、機械・装置の操作、製品に組み込まれるソフトウェアの開発など、事業所収入に直接関連する外注費用をいい、派遣受入者に係る支払額、委託生産額などの外注費は含まない。
 - ⑥ 転売した商品の仕入額とは、平成29年1年間において、実際に売り上げた転売品（他

から仕入れて又は受け入れてそのまま販売したもの。以下「転売品」という。)に対応する仕入額をいう。

(7) 製造品出荷額等は、平成29年1年間における製造品出荷額、加工賃収入額、くず廃物の出荷額及びその他収入額の合計であり、消費税及び酒税、たばこ税、揮発油税及び地方揮発油税を含んだ額である。

① 製造品の出荷とは、その事業所の所有に属する原材料によって製造されたもの（原材料を他企業の国内事業所に支給して製造させたものを含む）を、平成29年中にその事業所から出荷した場合をいう。また、次のものも製造品出荷に含まれる。

ア 同一企業に属する他の事業所へ引き渡したもの

イ 自家使用されたもの（その事業所において最終製品として使用されたもの）

ウ 委託販売に出したもの（販売済みでないものを含み、平成29年中に返品されたものを除く）

② 加工賃収入額とは、平成29年中に他企業の所有に属する主要原材料によって製造し、あるいは他企業の所有に属する製品又は半製品に加工、処理を加えた場合、これに対して受け取った又は受け取るべき加工賃をいう。

③ その他収入額とは、上記①、②及びくず廃物の出荷額以外（例えば、転売収入（仕入れて又は受け入れてそのまま販売したもの）、修理料収入額、冷蔵保管料及び自家発電の余剰電力の販売収入額等）の収入額をいう。

(8) 製造品、半製品及び仕掛品、原材料及び燃料の在庫額（従業者30人以上の事業所）は、事業所の所有に属するものを帳簿価額によって記入したものであり、消費税を含んだ額である。原材料を他に支給して製造される委託生産品も含まれる。

(9) 有形固定資産の額（従業者30人以上の事業所）は、平成29年1年間における数値であり、帳簿価額によっている。

① 有形固定資産の取得額等には、次の区分がある。

ア 土地

イ 建物及び構築物（土木設備、建物附属設備を含む）

ウ 機械及び装置（附属設備を含む）

エ 船舶、車両、運搬具、耐用年数1年以上の工具、器具、備品等

② 建設仮勘定の増加額とは、この勘定の借方に加えられた額をいい、減少額とは、この勘定から他の勘定に振り替えられた額をいう。

③ 有形固定資産の除却・売却による減少額とは、有形固定資産の売却、撤去、滅失及び同一企業に属する他の事業所への引き渡しなどの額をいう。

④ 有形固定資産の投資総額は以下の算式により算出し、表章している。

投資総額 = 取得額 + 建設仮勘定の年間増減（増加額 - 減少額）

(10) 工業用地

事業所敷地面積は、平成30年6月1日現在において、事業所が使用（賃借を含む）している敷地の全面積をいう。ただし、鉱区、住宅、寄宿舎、グラウンド、倉庫、その他福利厚生施設などに使用している敷地については、生産設備などのある敷地と道路（公道）、塀、柵などにより明確に区別される場合又はこれらの敷地の面積が何らかの方法で区別できる場合は除外する。

なお、事業所の隣接地にある拡張予定地を事業所が占有している場合は含まれる。

(11) 工業用水

淡水・水源別用水量

工業用水とは、事業所内で生産のために使用される用水（従業員の飲料水、雑用水を含む）をいい、1日当たり用水量とは、平成29年1年間に使用した工業用水の総量を平成29年の操業日数で割ったものをいう。

- ① 公共水道は、都道府県又は市区町村によって経営される工業用水道又は上水道から供給を受ける水をいう。工業用水道とは、飲用に適さない工業用水に供給する水道（工業用水道）から取水した水をいう。上水道とは、一般の水道のことで、飲用に適する水道（上水道）から取水した水をいう。
- ② 井戸水は、浅井戸、深井戸又は湧水から取水した水をいう。
- ③ その他の淡水は、「①公共水道」、「②井戸水」、「回収水」以外の淡水をいう。例えば、河川、湖沼又は貯水池から取水した水（地表水）、河川敷及び旧河川敷内において集水埋きよによって取水した水（伏流水）、農業用水路から取水した水、他の事業所から供給を受けた水などである。

(12) 生産額（従業者30人以上の事業所）は、下記算式により算出し、表章している。

$$\text{生産額} = \text{製造品出荷額} + \text{加工賃収入額} + (\text{製造品年末在庫額} - \text{製造品年初在庫額}) + (\text{半製品及び仕掛品年末価額} - \text{半製品及び仕掛品年初価額})$$

(13) 付加価値額（粗付加価値額）は、下記算式により算出し、表章している。

① 従業者30人以上

$$\begin{aligned} \text{付加価値額} = & \text{製造品出荷額等} + (\text{製造品年末在庫額} - \text{製造品年初在庫額}) \\ & + (\text{半製品及び仕掛品年末価額} - \text{半製品及び仕掛品年初価額}) \\ & - (\text{推計酒税、たばこ税、揮発油税及び地方揮発油税}^{(*1)}) \\ & + \text{推計消費税額}^{(*2)} - \text{原材料使用額等} - \text{減価償却額} \end{aligned}$$

② 従業者29人以下

$$\begin{aligned} \text{粗付加価値額} = & \text{製造品出荷額等} \\ & - (\text{推計酒税、たばこ税、揮発油税及び地方揮発油税}^{(*1)}) \\ & + \text{推計消費税額}^{(*2)} - \text{原材料使用額等} \end{aligned}$$

*1:平成29年調査より「酒税、たばこ税、揮発油税及び地方揮発油税の合計額」の調査を廃止したため、「推計酒税、たばこ税、揮発油税及び地方揮発油税」は、出荷数量等から推計したものである。

*2:推計消費税額は平成13年調査より消費税額の調査を廃止したため推計したものであり、推計消費税額の算出に当たっては、直接輸出分、原材料、設備投資を控除している。

(14) 「品目別統計表」の産出事業所数は、産業の格付けとは関係なく、当該品目を生産したすべての事業所が集計されている。

(15) 品目と産業の関係について

工業統計調査においては、製造品が複数の品目にわたる事業所の産業格付けは、生産するそれぞれの品目の製造品出荷額の大きさの割合によって、産業が決定されている。したがって、生産品目は同一品目であっても、同一産業から生産されるだけでなく、他の種々な産業でも生産されていることとなる。

品目と産業との関係を見るものが、「品目別統計表 1. (5) 品目別出荷における産業別

の産出事業所数及び出荷額」の産出率及び「品目別統計表 1. (6) 産業別出荷における品目別の産出事業所数及び出荷額」の出荷率の統計表である。

- ① 「品目別統計表 1. (5) 品目別出荷における産業別の産出事業所数及び出荷額」は、生產品目がどの産業によって生産されたのか、産出率の高い産業順（産出率が2%未満の産業は省略）に表章したものであり、下記算式により表章している。

$$\text{A品目のB産業産出率} = \frac{\text{(A品目のB産業出荷額)}}{\text{(A品目の全出荷額)}} \times 100 (\%)$$

- ② 「品目別統計表 1. (6) 産業別出荷における品目別の産出事業所数及び出荷額」は、それぞれの産業で出荷している品目を、出荷率の高い品目順（出荷率が2%未満の品目は省略）に表章したものであり、下記算式により表章している。

$$\text{A産業のB品目出荷率} = \frac{\text{(A産業のB品目出荷額)}}{\text{(A産業の全出荷額)}} \times 100 (\%)$$

なお、「品目別統計表 1. (6) 産業別出荷における品目別の産出事業所数及び出荷額」の産業の事業所数は、賃加工専業の事業所は除いているため「産業別統計表」の事業所数とは一致しない場合がある。

(16) 金額項目について

製造品出荷額等などの経理事項については、原則消費税込みで把握しているが、一部の消費税抜きの回答については、「統計調査における売上高等の集計に係る消費税の取扱いに関するガイドライン（平成27年5月19日 各府省統計主管課長等会議申合せ）」に基づき、消費税込みに補正した上で結果表として集計した。ただし、以下の項目については、ガイドラインと異なる処理を行っていることに注意されたい。

- ① ガイドラインでは在庫について補正処理の対象外とされているが、工業統計では従前から「消費税の税込み記入・税抜き記入の別」における選択範囲に「在庫額」を含めていることから、補正処理の対象とすることとし、他の金額項目に合わせて消費税込みに補正している。
- ② ガイドラインでは輸出額の算定における転売品は直接輸出「無」とされている。一方、工業統計では従前から「品目別製造品出荷額」、「加工賃収入額」及び「その他収入額」の合計に対する輸出比率を記入することとしており、実態として直接輸出比率算出の際、分母に転売品の金額を含めて算出・報告するケースが確認されたことから、転売品については直接輸出「有」として算定している。

<ガイドライン>

http://www.soumu.go.jp/main_content/000365494.pdf

5. 表 章

「産業別統計表」の概況では、産業名を略称で表示している場合がある。略称については次のとおり。

| 産 業 名 | 略 称 | 産 業 名 | 略 称 |
|-------------------|------|----------------------|-------|
| 09 食料品製造業 | 食料品 | 21 窯業・土石製品製造業 | 窯 業 |
| 10 飲料・たばこ・飼料製造業 | 飲 料 | 22 鉄鋼業 | 鉄 鋼 |
| 11 繊維工業 | 繊 維 | 23 非鉄金属製造業 | 非鉄金属 |
| 12 木材・木製品製造業 | 木 材 | 24 金属製品製造業 | 金属製品 |
| 13 家具・装備品製造業 | 家 具 | 25 はん用機械器具製造業 | はん用機械 |
| 14 パルプ・紙・紙加工品製造業 | パルプ紙 | 26 生産用機械器具製造業 | 生産用機械 |
| 15 印刷・同関連業 | 印 刷 | 27 業務用機械器具製造業 | 業務用機械 |
| 16 化学工業 | 化 学 | 28 電子部品・デバイス・電子回路製造業 | 電子部品 |
| 17 石油製品・石炭製品製造業 | 石油石炭 | 29 電気機械器具製造業 | 電気機械 |
| 18 プラスチック製品製造業 | プラ製品 | 30 情報通信機械器具製造業 | 情報通信 |
| 19 ゴム製品製造業 | ゴム製品 | 31 輸送用機械器具製造業 | 輸送用機械 |
| 20 なめし革・同製品・毛皮製造業 | 皮 革 | 32 その他の製造業 | その他 |

6. 記号及び注記

- (1) 各項目の金額は万円単位で調査しているため、金額表示の単位が百万円の場合は、単位未満を四捨五入している。このため、積み上げと合計が一致しない場合がある。
- (2) この統計表中、「－」は該当数値なし、「0」は四捨五入による単位未満、「▲」は数値がマイナスであることを表している。「X」は、集計対象となる事業所が1又は2であるため、これをそのまま掲げると個々の報告者の秘密が漏れるおそれがあるため秘匿した箇所である。また、集計対象が3以上の事業所に関する数値であっても、集計対象が1又は2の事業所の数値が合計との差し引きで判明する箇所は、併せて「X」とした。
- (3) この統計表中、「年次」については、「事業所数、従業者数」と経理事項（現金給与総額、製造品出荷額等など）では調査時点が異なるため、経理事項の年次に統一している。

Ⅲ その他の注意事項

1. 従業者3人以下の事業所の数値について

工業統計調査は、従業者4人以上の事業所が調査対象であるため、従業者3人以下の事業所の数値について、以下の推計を行い「産業別統計表 5. 参考表」に掲載している。

(1) 推計項目

事業所数、従業者数、製造品出荷額等の3項目

(2) 推計方法

① 事業所数及び従業者数

工業調査準備調査名簿により推計

② 製造品出荷額等

全国の従業者4～9人事業所の産業細分類別（4桁分類）1事業所あたりの対前年比^(*)を都道府県別の従業者1～3人事業所の産業細分類別（4桁分類）1事業所あたりの数値（前年値）に乗じたものに、当年の都道府県別の従業者1～3人事業所の産業細分類別（4桁分類）の事業所数を乗じて算出し、産業小分類（3桁分類）、産業中分類別（2桁分類）に積み上げた値を各都道府県の推計値とし、これを積み上げて全国の数値としている。

*3:事業所あたりの対前年比 = 当年4～9人の1事業所あたり製造品出荷額等
/ 前年4～9人の1事業所あたり製造品出荷額等

2. 平成27年（2015年）数値について

時系列表中の平成27年（2015年）における数値は、「平成28年経済センサス-活動調査 産業別集計（製造業）（総務省・経済産業省）」の調査結果を、工業統計調査の調査範囲に合わせ従業者4人以上の事業所について再集計したものであり、斜体で表章してある。

「平成28年経済センサス-活動調査」は、調査票の設計、調査時点等の相違などから、工業統計調査の数値と連結しない部分がある。数値の解釈に当たっては、下記の点について留意されたい。

（平成27年の数値についての主な留意点）

- ① 調査事項を簡素化（一部廃止）した個人経営調査票を設けたことにより、調査事項の一部については集計に含まれていない。
- ② 金額項目については、「統計調査における売上高等の集計に係る消費税の取扱いに関するガイドライン(平成27年5月19日 各府省統計主管課長等会議申合せ)」に基づき、消費税込みに補正した上で結果表として集計した。

3. 転載について

この統計表に掲載された数値を他に転載する場合は、経済産業省大臣官房調査統計グループ 平成30年 工業統計表「品目別統計表」、「産業別統計表」、「地域別統計表」による旨を明記してください。

4. お問い合わせ先

この統計表について質問がある場合は、下記あてに御連絡ください。

〒100-8902 東京都千代田区霞が関一丁目3番1号
経済産業省 大臣官房調査統計グループ 構造統計室
電話 (03) 3501-9929 (直通)

統計お問い合わせ一覧：https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/list_contact.html

メールアドレス：qqcebd@meti.go.jp